

4 また来年も待ってるよ



ガサガサ。ゴソゴソ。

「あつ、フクロウがやってきた。」

毎年、ぼくの家には、フクロウがやってくる。夏が近づくと屋根うらに巣すをつくりにやってくるんだ。⁵

「こも今年も来たよ。また、いっしょに遊ぼうね。」

って、フクロウが、言っているような気がするんだ。

フクロウのかわいいところは「顔」だ。ぱっちりした目に、ちよつと曲がつたくちばし。思わず、近づいてみたくなる。

フクロウのうしろに回るとフクロウの顔もうしろに向くので、とてもおもしろいんだよ。とくに、体は動かずに顔だけ動くところが、さいこうなんだ。



「君にはできないだろ。」

って言う、フクロウの声が、ぼくには聞こえたよ。

フクロウは、ぼくの家の屋根うらでたまごをう

む。今年は、三つたまごをうんだ。そのうち、二

羽のひながかえった。ひなにぼくは名前をつけた。

「うん」と「ピー」で、つなげて言うど「うん

ピー」だ。「うん」という名前は、うんちばっか

りするからで、「ピー」という名前は、「ピーピー」鳴くからだ。「うんピー」は、

屋根うらをうんちだらけにして育った。

ぼくは、おすがとってきたえものを、めすがひなに食べさせている

ところがいちばんすきだ。親はやさしくて、ひなはそのやさしさにま

んぞくしている感じがするからだ。そのときのひなの顔が幸せそうで

いいんだ。ぼくのお母さん^{かあ}もとてもやさしい。ぼくがだっこしてもらっ

て、あまえているときと同じだね。

うんピーは、生まれてから二十日^{はつか}ほどたつと、顔つきもフクロウら

しくなり、鳴き声も力強くなった。大人^{おとな}になると、野ネズミなどをま

るのみにしてしまいうらしい。うんピーたちが出ていったあと巣を見て



みると、死んだモグラもあった。フクロウのひなはかわいいけれど、自然の中で生きていくために、そんなおそろしいことをしていたのかな。きつと、かりの練習を
していたにちがいない。

人と鳥の世界はちがう。生き方もちがう。鳥は、大きい動物に食べられたり、人間にじゅうでうたれたり、森にはきけんがいっぱいだ。つらいこともたくさんある
だろう。カもいっぱいいるだろう。けれど、がんばって生きている。
5



ピーは、あらしの夜に家を出た。うんも出ていった。親からはなれ、自分の力で生きていくんだ。

「うんピー、りっぱに育ってね。」¹⁰

フクロウが家を出ていったあと、森のほうから、

「ホーホー」

と声が聞こえてくることがある。うんピーかな。

「また、来年も待つてるよ。」



「ぼく」は、どんな気持ちで「また、来年も待つてるよ。」と言ったのでしょうか。



自然の中に生きる動物や植物のことを、「かわいいな」、「すこいな」、「大切にしたいな」と思ったことはありませんか。

道徳 「また来年も待ってるよ」

四年 組・名前)

◎物語をよく読んで、考えましょう。

- ①顔つきがフクロウらしくなり、鳴き声が力強くなった「うんぴー」を見て、「ぼく」はどんなことを考えたでしょう。

--	--	--

- ②「ぼく」はどんな気持ちで「また、来年も待ってるよ」と言ったのでしょうか。

--	--	--	--	--